



# 令和元年度第2回 鹿部町「対話ミーティング」

---

令和元年11月12日(火)18時00分～  
令和元年11月13日(水)17時30分～  
令和元年11月15日(金)18時00分～  
令和元年11月17日(日)10時00分～  
令和元年11月18日(月)16時00分～  
令和元年11月21日(木)16時00分～

鹿部会館  
ロイヤルホテルみなみ北海道鹿部  
本別中央会館  
中央公民館  
大岩地域会館  
出来潤会館

# ■はじめに……

「対話ミーティング」とは

町民皆さまとの  
意見交換

ご提案

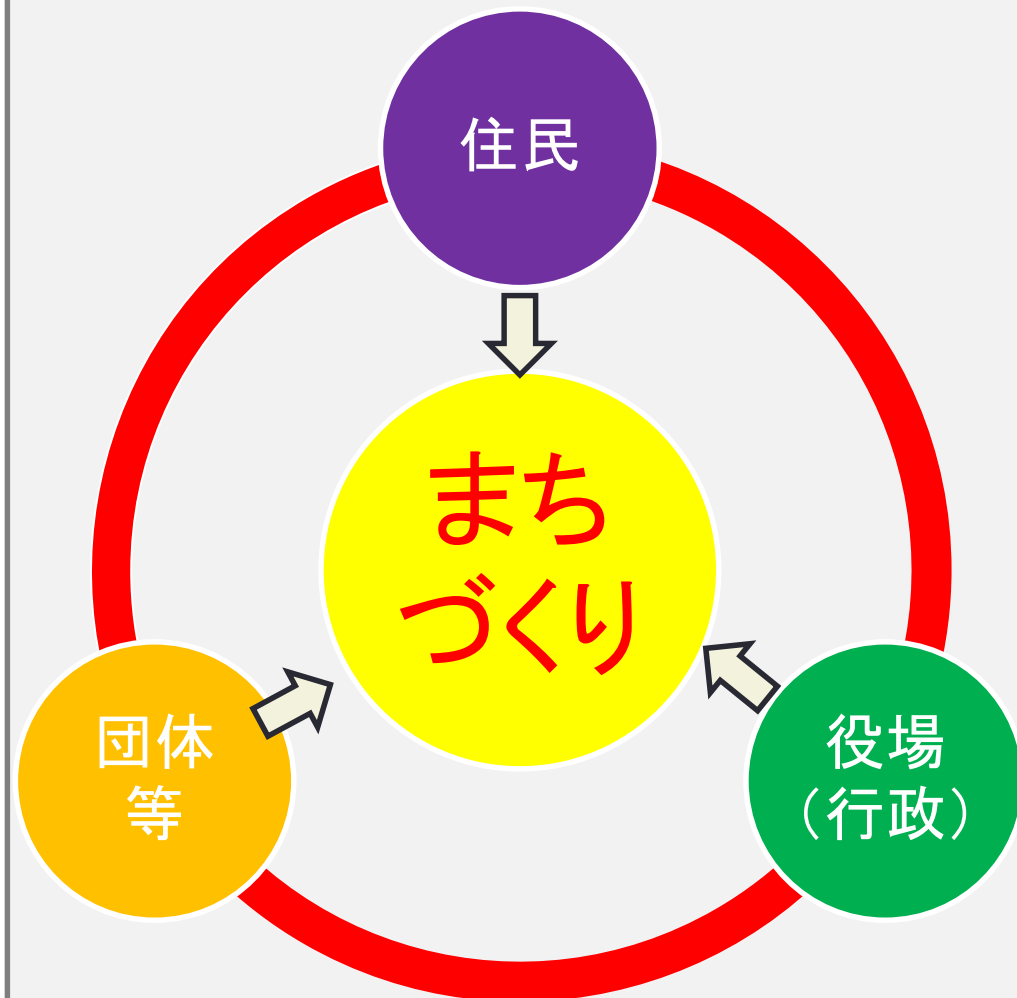
ご意見

ご要望

町民皆さまによる  
“まちづくり”へ

目指す“まちづくり”の形

町民



# ■対話ミーティングのこれから

## 今後の事業展開(案)

### ○意見交換の機会

対話ミーティング・・・テーマごとの町民全体意見交換等



公民館1か所での開催

出前座談会の実施・・・団体型意見交換等

少人数からの申し込みを受け、町内各所で意見交換を行う。

語り町長室・・・個別型意見交換等

意見・提案箱(役場・本別中央会館に設置)

⇒ 町民皆さまによる“まちづくり”の実現

## ■本日説明する事業

部署名	令和元年度事業等
民生課	●鹿部町合葬式墓地整備事業
保健福祉課	●生活支援体制整備事業
水産経済課	●山村活性化対策事業 ●鹿部町中小企業チャレンジ支援事業補助金 ●水産等人材育成支援事業
食と観光推進室	●道の駅しかべ間歇泉公園施設管理運営業務
総務・防災課	●鹿部町役場新庁舎建設

# ■令和元年度 新規事業等の進み具合

# 鹿部町合葬式墓地整備事業

- ・事業費 : 5,011千円
- ・財源内訳 : 5,011千円 (一般財源)

## ○設置場所

鹿部墓地内(旧火葬場跡地付近)

## ○使用料

- ・焼骨1体 50,000円
- ・焼骨2体以上 100,000円
- ・記名板(任意)使用料 20,000円 (プレート及び刻字費用他実費)



## 事業進捗状況

- ・令和元年9月末に完成し、10月1日から使用受付を開始

### 申請方法

- 1 申請 : 申請書に必要種類を添付して提出
- 2 使用料の納付 : 使用料の納付後、領収書を発行
- 3 納骨日時決定 : 4月～11月の期間で決定(土日、祝日を除く)
- 4 許可証の交付 : 納骨日時決定後、許可証を交付
- 5 納骨 : 焼骨と許可書を持参し、親族、関係者の方が埋蔵

# 生活支援体制整備事業

ボランティアなど地域の多様な主体で構成される協議体と生活支援コーディネーターを中心に地域全体で高齢者の生活を支える体制づくり

## 事業進捗状況

### ○ボランティア応募総数

男性4名 女性6名 計10名  
 年齢内訳 30歳以上40歳未満 1名  
 60歳以上70歳未満 9名

### ○ボランティア活動別応募総数(複数応募可)

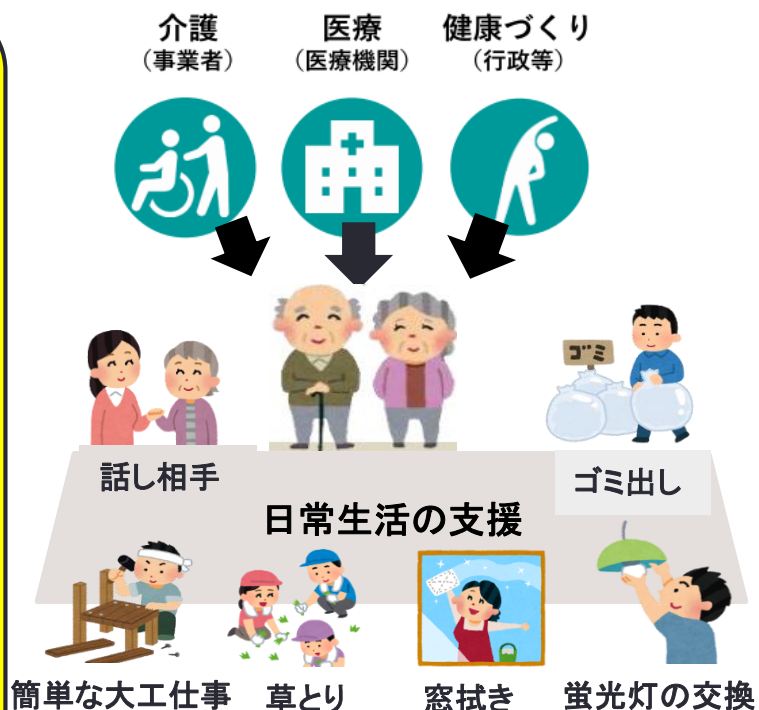
高齢者支援(生活支援サービス) 10名  
 地域支え合い活動(あったかサロン等) 3名  
 福祉施設活動(渡島リハビリテーションセンター等) 3名

### ○ボランティア活動実績

高齢者支援 利用者数:3名  
 地域支え合い活動 :5回  
 福祉施設活動 :3回

## 介護保険特別会計

- ・ 事業費 : 1,296千円
- ・ 財源内訳 : 498,960円(国負担)、249,480円(道負担)、298,080円(保険料(第1号被保険者))、249,287円(町負担)



生活支援コーディネーターが調整

ボランティアの「力」と「協力」

# ■山村活性化対策事業

- ・事業費：10,065千円
- ・財源内訳：10,000千円（山村活性化支援交付金）、65千円（一般財源）

農林水産業及びその基盤となる農山村の振興を図るための取組に対し重点的に国が支援

- ①地域資源の賦存状況・利用形態等の調査
- ②地域資源を活用するための合意形成、組織づくり、人材育成
- ③消費拡大と販売促進、付加価値向上等を図る取組み

## 事業進捗状況

「東京農業大学農山村支援センター」と協力・調整を図りながら事業を実施

### ○特産品開発（実施中）

町内水産加工事業者とのヒアリングを実施し、未利用・未活用の水産品を活用した特産品の調整を図る

### 【今後実施する事業】

- タラコの成分分析
- 試作品モニター調査
- 山菜栽培体制づくり

- ・令和元年4月から令和4年3月までの事業
- ・交付金の上限は、各年度10,000千円



- ・事業費：10,000千円
- ・財源内訳：10,000千円（一般財源）

## ■鹿部町中小企業チャレンジ支援事業補助金

町内の中小企業者が経営力向上のために行う事業の経費に対し補助金を交付する

### ○事業内容

平成30年度交付実績、事業効果、経営状況を点数化して優先順位を決定し、予算額の範囲内で町内の中小企業者へ補助金を交付する。

### ○対象事業

- (1) 設備投資事業（事業用施設新築、事業用備品購入等）
- (2) 人材確保事業（雇用数の増に係る必要経費）

### 事業進捗状況

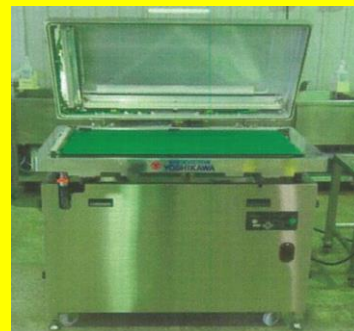
- ・申請件数17件（全て設備投資事業）
- ・交付決定件数13件
- ・事業内容

機械設備5件：事業用機械設備購入

重機3件：フォークリフト購入

車両2件：トラック購入

建物設備3件：事業用建物施設補修等



真空包装設備導入



冷凍倉庫扉補修

# ■水産等人材育成支援事業

- ・事業費：2,000千円
- ・財源内訳：1,000千円（地域づくり総合交付金）、1,000千円（一般財源）

水産振興の推進を図るため、将来を見据えた水産エキスパートの育成と漁協や生鮮業者等の意欲向上を図るための取組みなど、水産行政全般を担う人材の確保を目指す

## ◆事業内容

- ・スキルup研修会（漁協職員向け）  
→必要に応じ生鮮業者、加工業者も
- ・専門的職員の採用（エキスパートの育成）

（株）フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング津田氏による講演会



浜中町ウニ養殖施設視察（6月）



留萌市新星マリン漁業協同組合  
なまこ桁引漁業視察（9月）

# 道の駅しかべ間歇泉公園施設管理運営業務

民間の能力を活用し、質の高いサービスの提供やコスト削減、効率的な運営を図るため、指定管理者制度を導入

○指定管理者 株式会社 シカベンチャー

○指定期間 平成31年4月～令和4年3月

## ○基本方針

- 1 鹿部町の観光・産業を牽引する道の駅となる
- 2 お客様が鹿部町のファンになってしまうような「ユーザー体験」を提供する
- 3 「域外」から外貨を稼ぐ「目的地」となる道の駅にする
- 4 地域の魅力を発掘・磨き上げて・発信する
- 5 道の駅事業を通じて、町財政への貢献をする
- 6 外部専門家チームの知見を集め、活用し、スピードを重視した運営をする
- 7 収益は積極的に再投資し、持続的に収益を上げ続ける仕組みをつくる



## 事業進捗状況

- スタッフの意識改革
  - ・「鹿部町に来たすべての方に楽しんで頂く」
  - ・勉強会、定期会議の実施
- 情報発信
  - ・道の駅のホームページを作成
    - 11月から公開
- お買い場の改善
  - ・POPの作成、陳列方法の変更
- 新商品の開発
  - ・オリジナル商品の開発、ギフトセットの作成



# ■ 役場新庁舎建設の 進み具合について

## 新庁舎の基本理念

## 『笑顔あふれ ひかり輝く未来へつなぐ新庁舎』

## 新庁舎の基本方針

## ①誰もが利用しやすい庁舎

あらゆる人々に利用される施設であり、使いやすく、親しみやすい場であることが求められることから、ユニバーサルデザインを採用し、来庁者が短時間で適切なサービスを受けられる、便利で利用しやすい庁舎を目指します。

## ②防災拠点として役割を果たす庁舎

地震や噴火、津波や風害などの自然災害発生時において、行政機能を発揮できる庁舎を目指します。

## ③機能的で柔軟性のある庁舎

多機能で効率的な機能配置、ゾーニング計画を行い、将来の機構改革などに対応できるフレキシブルな庁舎を目指します。

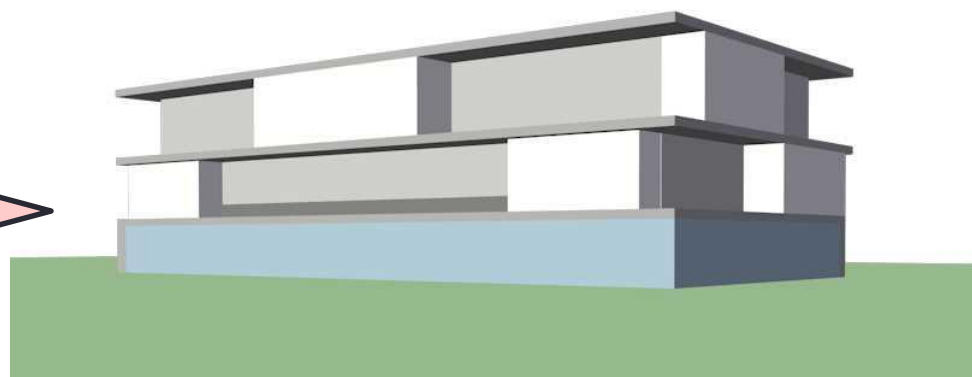
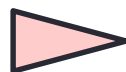
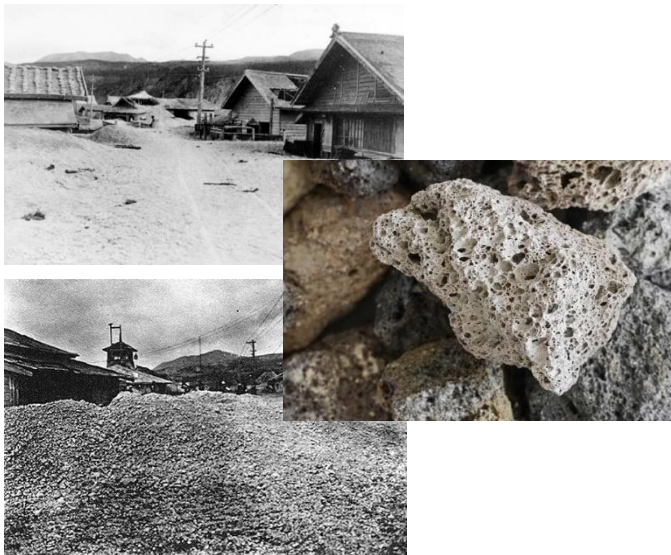
## ④省エネルギー対策など環境に配慮した庁舎

省資源・省エネルギーなどの環境負荷低減対策を行いながら、ランニングコストにも配慮した庁舎を目指します。

## デザインコンセプト

## 歴史・風土・資源を活かした庁舎 『逆境に立ち向かう、不屈の精神』

「逆境に立ち向かう、不屈の精神」を象徴し、勇気や資源をくれた軽石をモチーフとし、軽快でリズムカルなファサードを持つ、鹿部町らしい外観デザインを想定しています。コンクリートの杉板型枠と、軽石の表面のようなざらざらした土壁塗装として、地層のような自然素材のイメージです。

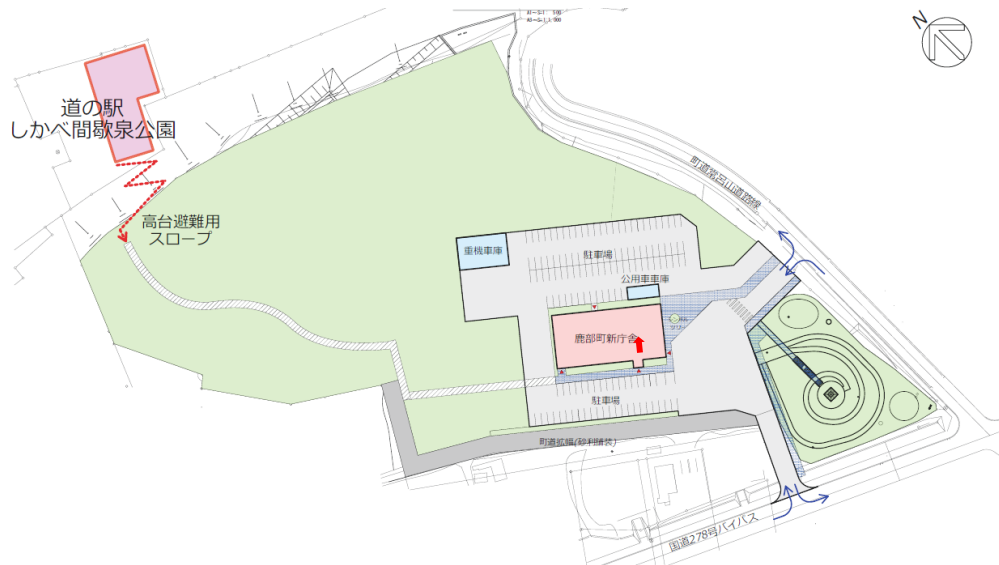


降り積もった軽石によって、積層された地層を表し、これまでの町の文化・歴史が積み重なって現在の町があり、これからも積み重ねていくことを表し、南面の日射遮蔽となる水平庇

立地・施設配置

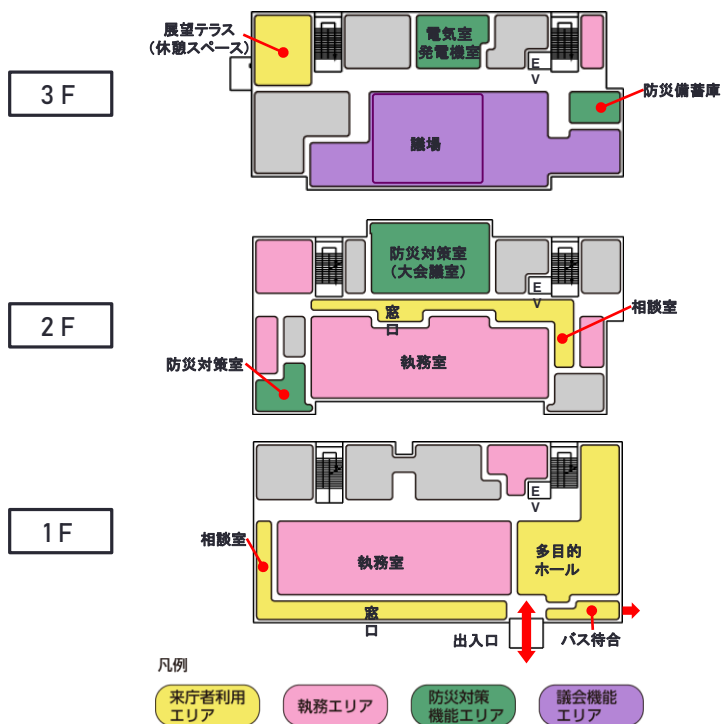
建設地は鹿部町の南東に位置する「道の駅しかべ間歌泉公園」に接し、また国道278号鹿部バイパスからアクセス可能な敷地となっています。

建設地は高台で、津波浸水エリアの外に位置し、津波発生時にも庁舎機能の継続が可能です。



平面ゾーニング

各階平面ゾーニングは、エントランス・多目的ホール、窓口など来庁者が利用できるエリアと、執務エリアをそれぞれまとめて配置することで、それぞれのエリアを明確にし、利用者に分かりやすい平面計画とします。



スタッキング(フロア構成)

- 1F 町民の利用頻度の高い窓口機能を1階に集約します。また、コミュニティ機能持つ多目的ホールとバス待合スペースを設けます。
- 2F 災害時の司令塔となる大会議室(災害対策本部)は、町長室・副町長室と同じ2階に配置し、防災関連部署と連携が取りやすい計画とします。
- 3F 議会は、3階に配置し、議会機能の独立性を確保した計画とします。また、駒ヶ岳と海が眺望できる展望テラス(休憩スペース)を設ける予定です。

